

第5章

調査回答結果

第5章 調査回答結果

第1節 市町村の各行政区（ムラ）所在の「武術的身体表現」を有する調査 調査地区一覧表

各市町村へ基本調査を行い、対象行事がない市町村もある。悉皆調査において調査票の提出があった字の一覧である。

区分	No.	市町村	対象 村数	豊年祭や綱引き、集落の祭祀、行事の中で、「空手の所作」、「村棒」、「棒踊」等がある村名
北部	1	国頭村	1	奥
北部	2	大宜味村	1	饒波、大兼久、謝名城
北部	3	東村	0	—
北部	4	今帰仁村	3	今泊、仲宗根、湧川
北部	5	本部町	8	瀬底、伊野波・並里、浜元
北部	6	名護市	11	数久田、真喜屋・稲嶺、仲尾次、田井等・親川、振慶名、古我知、我部祖河、呉我、屋我、久志、辺野古
北部	7	恩納村	4	
北部	8	宜野座村	3	宜野座
北部	9	金武町	3	金武、並里、伊芸
北部	10	伊江村	2	西江上区、西崎区
北部	35	伊平屋村	5	我喜屋
北部	36	伊是名村	4	仲田、伊是名、勢理客、諸見
小 計			45	

区分	No.	市町村	対象 村数	豊年祭や綱引き、集落の祭祀、行事の中で、「空手の所作」、「村棒」、「棒踊」等がある村名
中部	11	うるま市	13	田場集落、宮城島（宮城集落、上原集落、池味集落）
中部	12	沖縄市	7	
中部	13	読谷村	4	座喜味、宇座、波平、長浜
中部	14	嘉手納町	1	野里
中部	15	北谷町	2	字北谷、字下勢頭
中部	16	北中城村	5	喜舎場、熱田、島袋、荻道、大城
中部	17	中城村	0	—
中部	18	西原町	1	小波津、小波津
中部	19	宜野湾市	4	字宜野湾、大謝名、野嵩、新城
中部	20	浦添市	1	前田
小 計			37	

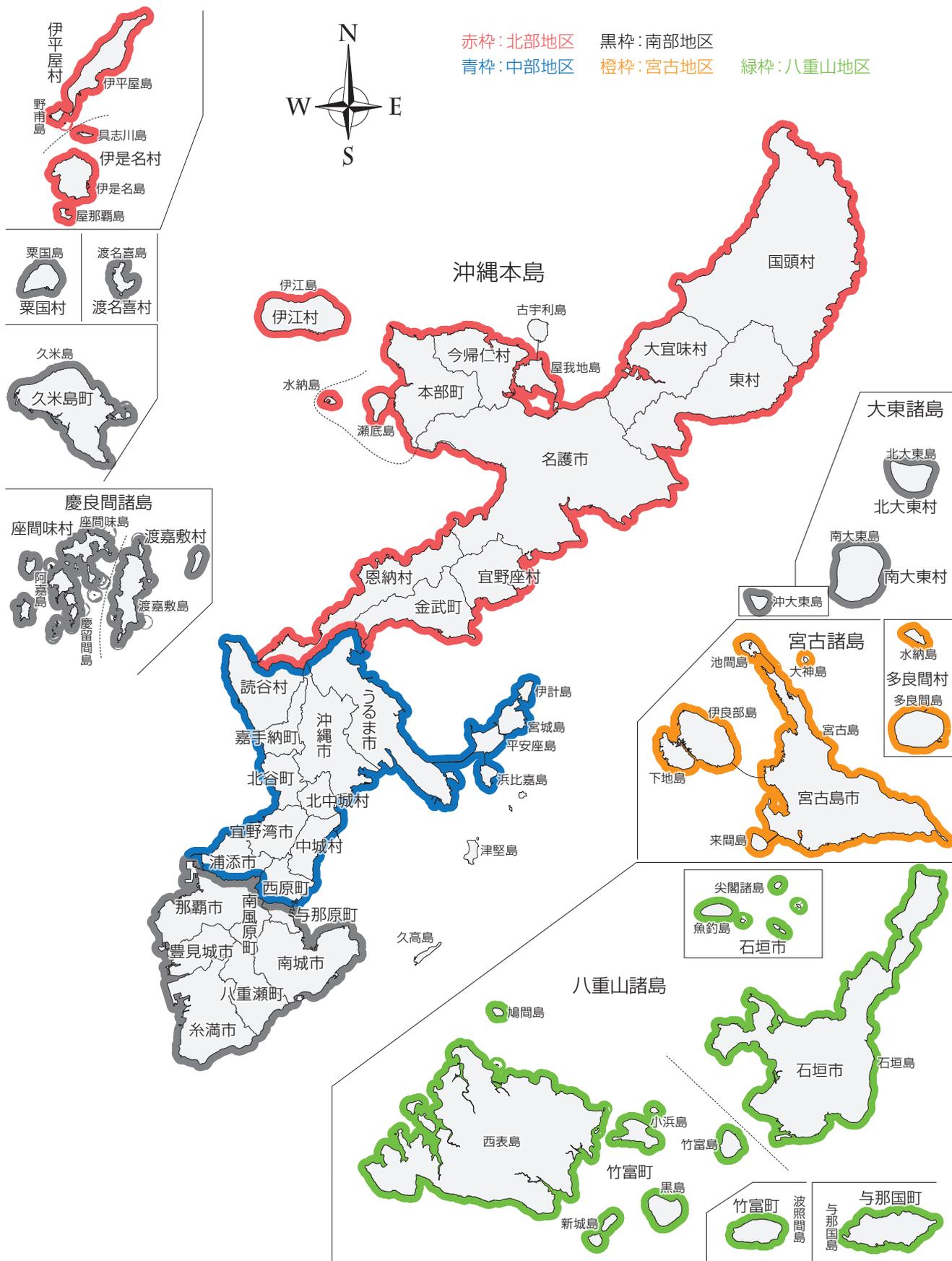
区分	No.	市町村	対象 村数	豊年祭や綱引き、集落の祭祀、行事の中で、「空手の所作」、「村棒」、「棒踊」等がある村名
南部	21	那覇市	1	字安里
南部	22	豊見城市	2	字嘉数、字保栄茂、高安、根差部、饒波、翁長
南部	23	糸満市	3	字真栄里、字真栄平、字新垣
南部	24	八重瀬町	11	東風平、富盛、世名城、当銘、志多伯、小城、友寄、宜次、安里、破名城、具志頭
南部	25	南城市	9	津波古区、奥武区
南部	26	与那原町	0	—
南部	27	南風原町	6	照屋、兼城、神里
南部	28	久米島町	1	字具志川
南部	29	渡嘉敷村	0	—
南部	30	座間味村	0	—
南部	31	粟国村	3	前原、草戸原
南部	32	渡名喜村	0	—
南部	33	南大東村	0	—
南部	34	北大東村	0	—
小 計			74	

区分	No.	市町村	対象 村数	豊年祭や綱引き、集落の祭祀、行事の中で、「空手の所作」、「村棒」、「棒踊」等がある村名
宮古	37	宮古島市	4	下地字川満、下地字来間、上野新里、上野字野原
宮古	38	多良間村	2	仲筋字、塩川字
小 計			6	

区分	No.	市町村	対象 村数	豊年祭や綱引き、集落の祭祀、行事の中で、「空手の所作」、「村棒」、「棒踊」等がある村名
八重山	39	石垣市	10	登野城、大川、石垣、平得、真栄里、大浜、宮良、白保、新川、川平
八重山	40	竹富町	9	竹富島、小浜島、黒島、西表古見、西表祖納、西表干立、波照間、鳩間島、船浮
八重山	41	与那国町	4	西、東、嶋仲、比川
小 計			23	

※調査にご協力頂きました各市町村の皆さまに感謝申し上げます。

第2節 調査地区分布地図



第3節 調査回答結果表

各市町村より回答頂いた結果を抜粋し、一覧にしたものであり、各個票については更新されている場合がある為、最新調査結果については、HP（<https://okinawakarate-unesco.jp/reports/>）にて公開する。



ホームページ

【北部地区】

市町村名	行政区	No	方言名称	武術的身体表現の形態
			1年中行事名	4 武術的身体操作・表現の分類
1.国頭村	奥	1	■シヌグ (フーヨーサレー行事とピーンクイクイ行事)。	■型の演武がある
2.大宜味村	饒波	2	■シヌグ・ウンジャミ	■型の演武(舞)がある
	字大兼久	3	ゾーガリー	■型の演武がある
	謝名城	4	■豊年祭(謝名城の豊年祭)	■型の演武がある
4.今帰仁村	今泊	5	■その他(村芝居)	■対面での打ち合い等がある ■獅子に対峙しての武術がある
	仲宗根	6	■その他(村踊り)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある、
	湧川区	7	■その他(村踊り)	■型の演武(舞)がある、 ■対面での打ち合い等がある
5.本部町	瀬底	8	■豊年祭(村踊り)	—
	伊野波・並里	9	■豊年祭(村踊り)	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある ■芝居の中で武術的所作が演じられる
	浜元	10	■シヌグ・ウンジャミ	—
6.名護市	数久田	11	■その他 (南島(フェーヌシマ)※北中城村指定無形民俗文化財)	■型の演武がある
		12	■豊年祭	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある ■その他 (ボーグミ(棒組)全員によるスーマキ(総巻き)がある。)
	真喜屋・稲嶺	13	■豊年祭 (綱引きで東側が刀と西側がナタをもった按司が合せる)道ジュネでは「棒」もある)	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある
	仲尾次	14	■豊年祭	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある ■その他
	田井等・親川	15	■豊年祭	■型の演武がある ■その他 (獅子舞の踊る手は、空手のクーサンクー(公相君)を活用したという伝承がある。)
	振慶名	16	■豊年祭	—
	古我知	17	■豊年祭	—

時期・場所	組織・指導者・伝承方法
5行事が行われる期日(旧暦)	11組織
旧盆後の最初の干支(亥の日)を「アラウイミ」と呼び、シヌグ行事(3日間)とウンジャミ行事(2日間)を隔年で行う。「ビーンクイクイ」はシヌグの際に3日目に行う	フーヨーサレー行事は朝、ヌドウンチでウグワン(祈願)を行い、「ヤマジー」組(奥川を挟んで西側)と「シバシジ」組(シバギーがある奥川を挟んで東側)の2組に分かれて数名(奇数か5人、7人)で、山に上り、「シドゥー」(責任者)は丑の人か未の干支の人が担う。シバヒ(神木)の取り扱い方がある。山から下るときは、かけ声を掛けない。山の神々にウフガンを行う。「シバヒ」(和名:イヌガン)の木は、悪霊払いをする神木と考えられており、小ぶりなものを選び、7回でゆすって折り倒す。ノコは使用禁止だという。出発前には、ヌドウンチでのウグワン(お祈り)を行う。現在はノコなどの神人が不在のため、区長や書記が代理で行うという。
旧盆明け亥の日(ウンガミの日)	ウンガミの実行委員会(区長が会長、各団体(婦人会・青年会)の代表などが代議委員)
旧盆の次の日	大兼久区公民館(区長及び役員)
旧暦の8月8日から11日まで ※隔年開催。 ※現在は十五夜の頃を中心に新暦の9月または10月に開催。	豊年踊り実行委員会
五年マール(満4年毎)	今泊棒術保存会(会長、青年会、消防団、豊年祭の時には小・中・高校生)
8月13日(スクミ)、15日(ソーニチ)、17日(終い)の3日間 ※豊年祭は5年マール(満4年) ※旧暦7月踊りから旧暦の八月踊りに変更	消防団、青年会、小学生、中学生
旧暦8月14日の豊年祭	棒シんかは、消防団、高校生、中学生で約20名くらい
8月11日、8月13日、8月15日	豊年祭実行委員 棒部(部長、副部長)
旧暦8月11日 ※5年に1回	並里区村踊り保存会
旧暦7月17日(トウンダチ) 旧暦7月21日(シニグ)	—
豊年祭の3日間	棒頭(経験を積んだ人で、プログラム全体に詳しい人があたる)
旧暦8月9日、11日、12日の3日間	「ボーグミ(棒組)」の「ボーガシラ(棒頭)」 踊り部の会長、棒組の会長
旧暦8月8日	芸能愛好会(真・稲神祠会会員)
旧暦9月7日～10日 旧暦9月7日(メージュクミ) 旧暦9月8日(スクミ) 旧暦9月9日(ソーニチ) 旧暦9月10日(ワカリ) ※2023(令和5)年は、土日にあたる10月28日(土)・29日(日)に変更。	「座員」(座長、副座長を筆頭に、踊方、棒方、楽屋方、裏方、御願(道ジュネー)、受付、接待) 「豊年踊担当者会議組織表」(総責任者、座長・副座長・踊方主任(=文化部長)・棒方主任など)
旧暦8月8日(親川公民館) 旧暦8月9日(田井等公民館)	青年会、両区の向上会。向上会は、29歳～55歳で構成。
旧暦8月8日 ※平成14年度(2002)から休日を正日にあてる。ポーは正日に実施。	座長(選任)、踊方、棒方。(豊年祭の一部)
旧暦8月7日(前仕込み) 旧暦8月8日(正日) ※週末や祝日、休日に変更あり。 ※3年マールで開催	区長のもとに4人の責任者あり(地謡責任者、座長責任者、棒方責任者、会計責任者) 従来、村踊りの出演者は総て、男性だけであったが、1941年羽地村内で古我知は初めて4名の女子青年が村踊りに出演して、その後から女子青年の出演者が毎年増えた。棒は男子のみか。

【北部地区】

市町村名	行政区	No	方言名称	武術的身体表現の形態
			1年中行事名	4 武術的身体操作・表現の分類
6.名護市	我部祖河	18	■豊年祭(踊の開演前と終了後)	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある
		19	■豊年祭	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある ■その他
	呉我	20	■豊年祭	■型の演武がある
	屋我	21	■豊年祭(ムラウドゥイ)	■型の演武がある
	久志	22	■盆行事(ムラ踊り)	■型の演武がある ■その他 (ムラ踊りの演目に「メーカタ」(伊良波伊吉の指導)のものがある。)
	辺野古	23	■豊年祭(ムラウドゥイ)	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある ■その他 (ムラウドゥイの演目にメーカタ、古くはコーサンクーと称す。別称ザーギリウドゥイ(舞台を決める舞、古武道的な形の力強い舞)『辺野古誌』p.655
8.宜野座村	宜野座区	24	■その他(宜野座の八月あしび)	■型の演武(舞)がある ■芝居の中で武術的所作が演じられる ■獅子に対峙しての武術がある
9.金武町	金武区	25	■その他(観月祭)	—
		26	■その他(旧暦八月十五日)	—
	並里区	27	■その他(十五夜村あすび)	■型の演武(舞)がある
	字伊芸	28	■その他(旧8月15日の観月祭)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
10.伊江村	西江上区	29	■その他 (西江上区民俗芸能発表会・伊江村民俗芸能発表会 他)	■対面での打ち合い等がある ■芝居の中で武術的所作が演じられる、
	西崎区	30	■その他 (西崎区民俗芸能発表会・伊江村民俗芸能発表会 他)	■対面での打ち合い等がある
35.伊平屋村	我喜屋	31	■その他(綱引き)	—
36.伊是名村	仲田・伊是名・勢理客・諸見	32	■シヌグ・ウンジャミ	■型の演武がある、 ■対面での打ち合い等がある

時期・場所	組織・指導者・伝承方法
5行事が行われる期日(旧暦)	11組織
旧暦8月8日	特別な組織はないが、青年会、向上会を中心に最近では高校生や中学生も本人の希望により参加する。
旧暦8月6日(メースクミ) 旧暦8月7日(スクミ) 旧暦8月8日(ソーニチ) 旧暦8月9日(ワカリ) ※村踊りは3年に1度の開催	組織としては「演芸部」があり、これは1978(昭和53)年からであり、それ以前は「豊昌会」と呼ばれていた。2003(平成15)年は、演芸部長を中心に3組の組長、地謡、舞踊、棒方等の責任者を選出して村踊りの取り組みについて話し合われた。メンバーは区長、評議員、老人会、婦人会、青年会、向上会の代表、踊り手の指導者数人、棒方の代表、書記である。村踊りの組織・取り組みについては、戦前から戦後初期は踊り方と棒方はそれぞれ独立した組織で、練習期間中の会計も別であった。[『名護市史 芸能編』]
豊年祭の正日(8月15日に近い土曜日(正日)、前仕込(前日))	向上会
9月9日	「棒組」がある(踊り組に対して、そのように呼ばれた) ・「平成13年豊年祭プログラム」(10月25日)の棒術には、7名の名前が記される。
7月16日	ポウシンカ 以前は、夜警、見物席の世話等いろいろな雑役を負った。
ムラウドウイ 7月11日(モーズクミ) 棒演舞 7月14日(スクミ) 16日(正日)、 17日(別に遊び) ※3年マール(3年に一度)	辺野古芸能保存会の棒術部
旧暦8月15日頃	宜野座区の15~49歳の青年会・成人会の男性で組織される「二才団」が中心となり、地域の老若男女が協力・参加して宜野座の八月あしびは催される。
旧暦8月15日	伝統芸能保存会
旧暦8月15日	男子青年団全員(金武区誌・戦前編・上)P309
旧暦8月15日	伝統芸能保存会の保存演目として位置づけられている(並里区事務所)
旧暦(8月15日)の観月祭で演舞。	伊芸南又島保存会(平成元年結成)
新暦10月下旬(西江上区民俗芸能発表会) 新暦11月第2週(伊江村民俗芸能発表会) ※8年に1回。直近は平成27年。	西江上区民俗芸能保存会、伊江村民俗芸能保存会(昭和48年伊江村民俗芸能保存会が発足し、『伊江島の村踊』の継承を行っている)。
新暦10月下旬(西江上区民俗芸能発表会) 新暦11月第2週(伊江村民俗芸能発表会) ※8年に1回。直近は平成31年。	西崎区民俗芸能保存会、伊江村民俗芸能保存会(昭和48年伊江村民俗芸能保存会が発足し、『伊江島の村踊』の継承を行っている)。
旧暦6月25日	
旧暦7月18日	・区長を中心として、子ども会会長や参加する男子の父親などがサポートする。 ・棒術の型については、青年会等で伝承されているため、指導できる方が子ども達の稽古を付ける。

【中部地区】

市町村名	行政区	No	方言名称	武術的身体表現の形態
			1年中行事名	4 武術的身体操作・表現の分類
11.うるま市	具志川 田場	33	■豊年祭(十五夜)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
		34	■盆行事(旧盆)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
		35	■その他(新年会、夏祭り)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
	与那城 宮城	36	■その他(15歳祝い)	■型の演武(舞)がある
13.読谷村	座喜味	37	■その他(敬老会(9月))	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある、 ■その他 (棒術を演武する前に演武者全員で「スーマチ(総巻)」を行う。)
		38	■その他(総合共進会(12月))	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある、 ■その他 (棒術を演武する前に演武者全員で「スーマチ(総巻)」を行う。)
	宇座	39	■盆行事	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
		40	■その他 (シチグアチエイサー・ジュグヤー「旧歴八月十五日 観月会」)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
	波平	41	■盆行事	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
		42	■その他(観月会)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
	長浜	43	■その他 (役員歓迎会、敬老会、生年合同祝)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
14.嘉手納町	野里	44	■その他 (5月小 グングウチャグワー 旧暦の5月5日)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
15.北谷町	下勢頭	45	■その他(祝賀行列や出演依頼の際に行う。)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある ■その他 (型の演武(舞)は、子どもが参加できるように工夫し演武(舞)の1つに取り入れた。)
	北谷	46	■豊年祭	■対面での打ち合い等がある、 ■その他(演武(舞)の中で武術的所作がある。)
		47	■その他 (12年毎(寅年)の「北谷大綱引き」、戦前は、毎年9月に行われる「北谷長老祭」や「ムラアシビ」でも演じられた。)	■対面での打ち合い等がある、 ■その他(演武(舞)の中で武術的所作がある。)
16.北中城村	喜舎場	48	■その他 (獅子舞 ※北中城村指定無形文化財)	
	熱田	49	■その他 (南島(フェーヌシマ)※北中城村指定無形民俗文化財)	
	島袋	50	■その他(島袋まつり)	■対面での打ち合い等がある
		51	■その他 (赤木名節 ※北中城指定無形民俗文化財)	

時期・場所	組織・指導者・伝承方法
5行事が行われる期日(旧暦)	11組織
旧暦8月15日	田場区伝統芸能ティンペー・獅子舞保存会
旧暦8月15日	田場区伝統芸能ティンペー・獅子舞保存会
旧暦8月15日	田場区伝統芸能ティンペー・獅子舞保存会
旧暦1月2日	宮城自治会、現在は各家庭単位。
戦前は、農閑期を利用して旧暦の7月16日、8月15日、9月9日に「アシビ」と言われる催しが開かれた。現在は、字行事の敬老会(9月)、総合共進会(12月)で演武披露される。	座喜味棒保存会は、1975年(昭和50年)4月10日に結成。構成員は字出身の青年が中心である。現在の保存会構成員は、小学生の頃から棒術を演じている。
戦前は、農閑期を利用して旧暦の7月16日、8月15日、9月9日に「アシビ」と言われる催しが開かれた。現在は、字行事の敬老会(9月)、総合共進会(12月)で演武披露される。	座喜味棒保存会は、1975年(昭和50年)4月10日に結成。構成員は字出身の青年が中心である。現在の保存会構成員は、小学生の頃から棒術を演じている。
旧暦7月16日「ウークイ」	宇座区伝統芸能保存会及び青年会が運営。
旧暦8月15日「ハチグアチジュグヤー」	宇座区伝統芸能保存会及び青年会が運営。
*波平盆行事～旧暦7月16日	伝統芸能保存会の組織により、ハンジャ棒は継承・継続されている。子ども棒術クラブもあり、保存会の青年達が指導にあたっている。
*波平観月会～旧暦8月15日	伝統芸能保存会の組織により、ハンジャ棒は継承・継続されている。子ども棒術クラブもあり、保存会の青年達が指導にあたっている。
自治会の行事(生年合同祝・役員歓送迎会・敬老会)のある毎に演じられていたが、最近では平成31年(2019)1月の亥年生年合同祝、9月の敬老会にて演武を披露。同年、地域伝統芸能保存事業として映像記録(DVD)を作成。40年前程前より不定期に読谷まつりや読谷村民族芸能祭にて演武を披露。	<ul style="list-style-type: none"> ・長浜伝統芸能保存会、自治会長が保存会長となり、棒術部長が演者をまとめる。(各演目・伝統芸能毎に部会がある) ・長浜自治会員すべてが会員となり、指導は部長を中心に数名の青年が行っている。
もともとは旧暦の八月に行われていた村芝居で演じられていた芸能である。現在は、団体が主催している行事のほか、町主催の野國總管まつりや県内外で行われる芸能祭などで披露している。	一般財団法人嘉手納町野里共進会は、理事長、副理事長、事務局長、理事評議員、監事、婦人部、青年部、古典音楽同好会、顧問で構成される。
・生年祝いの「カジマヤー」に行われる。(一般的には旧暦9月7日) ・下勢頭郷友会の行事等で行われ、出演依頼を受けたイベントで行われる。	<ul style="list-style-type: none"> ・下勢頭郷友会:戦後は、当初「字下勢頭会」、1955年(昭和30)年から「下勢頭部落会」の名称を使用、「下勢頭郷友会」と名称の変遷がある。 ・下勢頭芸能保存会:1976年(昭和51)年の結成。
	<ul style="list-style-type: none"> ・旧字北谷郷友会 ・1987年(昭和62)に「フェーヌシマ保存会」が組織され、会長1名、副会長2名、理事9名、監事3名、会員9名 計24名で組織されている。会員は、字北谷郷友会会員で構成されている。
・神行事として12年に1回(寅年)、旧暦6月15日に行われる「北谷大綱引き」のミチ(道)ジュネー、スネーの演目として演じられる。 ・現在は、字北谷郷友会のニグワチャー(旧暦2月2日)や、学事奨励会で演武(舞)される。	<ul style="list-style-type: none"> ・旧字北谷郷友会 ・1987年(昭和62)に「フェーヌシマ保存会」が組織され、会長1名、副会長2名、理事9名、監事3名、会員9名 計24名で組織されている。会員は、字北谷郷友会会員で構成されている。
●旧盆後の十七日の午後四時頃から。	
●踊られる時期は一定していないが、昔は旧盆の七月遊びと称した盆の前日の十四日と翌日の十六日であった。現在では八十八歳の長寿を祝う合同祝いのときや、字外から文化財として招待される公演のときなどである。	
・特に決まっていない。 ●村遊びの中で行うので毎年行うことはなく、何か大きな祝事の時に進行。	島袋民俗芸能保存会を中心に青年会、壮年会が協力、指導は保存会会員が行う。自治会の広報、公民館だよりを通して参加希望者を募集する。参加人数は約50人前後。
・1月の新年会、9月の敬老会、10月の島袋まつりと北中城まつり。 ●戦前から村芝居で演じられ、戦後も字の行事などで演じられている。	字島袋民俗芸能保存会(会員15人)

【中部地区】

市町村名	行政区	No	方言名称	武術的身体表現の形態
			1年中行事名	4 武術的身体操作・表現の分類
16.北中城村	島袋	52	■その他(敬老会―「赤木名節」)	■その他(空手風の舞踊)
	荻堂	53	■その他(旗すがしい・夏まつり)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
	大城	54	■その他(旗スガシー)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
18.西原町	小波津	55	■その他(旧暦6月の綱引き)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある ■その他 (獅子舞の演目に棒手(ボーディー)があり、前踊りとしてウフクン(一人棒)の演舞を行う。)
		56	■盆行事	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある ■その他 (獅子舞の演目に棒手(ボーディー)があり、前踊りとしてウフクン(一人棒)の演舞を行う。)
		57	■獅子又御願と七年まーる村遊び	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある、 ■その他 (獅子舞の演目に棒手(ボーディー)があり、前踊りとしてウフクン(一人棒)の演舞を行う。)
		58	■その他(七年まーる村遊び)	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある ■獅子に対峙しての武術がある ■その他 (獅子舞の演舞は、前踊りとして小波津の棒の「ウフクン(一人棒)」を使う棒手(ボーディー)、ムンダニ(紅白の布で編んだ紐に鞆と鈴を付けた道具)を使った鞆手(マーイディー)やムンダニを肩に掛けて空手の型を取り入れた小波津手(クファチディー)がある。)
19.宜野湾市	前田原	59	■その他(舞方(メーカタ))	■その他(舞踊)
	大謝名	60	■豊年祭 (大謝名の獅子舞。獅子舞の前に棒術と舞方を行う)	■型の演武がある
	野嵩	61	■豊年祭(野嵩マールアシビ)	■芝居の中で武術的所作が演じられる、
	新城	62	■その他(ムラアシビ)	■芝居の中で武術的所作が演じられる
20.浦添市	前田	63	■豊年祭 (綱引きと村芝居(近年村芝居なし)綱引きの後で「棒使い」とよばれる棒術を行う)	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある

時期・場所	組織・指導者・伝承方法
5行事が行われる期日(旧暦)	11組織
○開催期日:敬老会(9月17日) *演目の一つとして披露 *令和5年度はコロナ禍のあとで、4年ぶりの披露。コロナ以前は島袋の新年会や敬老会、北中城村まつりなどの行事で披露していた。 ○島袋の村遊びは、定期的に行うマール遊びではなく、何か大きな記念行事の時にやる方法であった。例えば、昭和4年の昭和天皇即位記念、昭和15年の紀元二千六百年祭、終戦後昭和24・25年頃の籠の仕立て祝いという場合である。期日は旧暦八月か九月頃に二日間行ったという。	島袋民俗芸能保存会を中心に青年会、壮年会が協力、指導は保存会会員が行う。自治会の広報、公民館だよりを通して参加希望者を募集する。参加人数は約50人前後。 宇島袋民俗芸能保存会(会員15人)
旧暦7月17日	荻道青年会・壮年会
・8月14日(旧暦7月17日)年1回 ・令和4年度は、旗スガシーは中止となった。三役で拝所にウガンを実施。	なし
旧暦6月25日(ウファチ)の後の日曜日の綱引き。	・現在の会長は、平成14年の結成から現保存会会長が担う。 ・会員は、小波津に在住するもの及び小波津出身者で本会の趣旨に賛同するものとする。
旧暦7月15日(ウークイ)の後の日曜日の盆踊り。	・現在の会長は、平成14年の結成から現保存会会長が担う。 ・会員は、小波津に在住するもの及び小波津出身者で本会の趣旨に賛同するものとする。
旧暦8月15日(十五夜)の「獅子又御願」と、卯年・酉年に行う「七年まーる村遊び」。	・現在の会長は、平成14年の結成から現保存会会長が担う。 ・会員は、小波津に在住するもの及び小波津出身者で本会の趣旨に賛同するものとする。
本来は旧暦8月15日の十五夜に行われるものであるが、区民や出演者の仕事などの都合を考慮し、その前後の日曜日をあてて開催されている。今回は日曜日開催で、旧暦では8月17日にあたる。	保存会の会長名がないが、会長は糸数氏が現在も務めている。
じのーん大綱引き(旧暦6月15日あるいは25日)、祝儀(敬老会、生年祝い等)等の座敷、観月会等	じのーん舞方保存会(平成17年発足)
旧暦8月15日	大謝名獅子舞保存会(昭和51(1976)年より)
昔・子・午の旧暦8月15日を中日として3日間 昭和59年～:子・午の旧暦8月15日近くの日曜日	戦前は組(=門中)を中心に行われた。
寅・申年の旧暦9月のタントウイ(種子取)後。旧暦9月15日頃	
・旧暦6月の豊年祭の一環で行われる。 ・令和4年は、コロナ禍で綱引きは3年連続で中止になったが、7月23日(旧暦6月25日)に「綱引きウガン」を集落内16カ所を自治会三役等数名で回って、部落民の健康祈願を行った。	・現在の会長は、令和3年度から保存会長(自治会役員)を担う。小学校低学年頃からの経験を積んできた。 ・コロナ禍前までは通年で毎週水曜日午後8時～9時まで自治会(公民館)前で棒の練習を行っていたが、現在はコロナ禍の影響でできない。 ・コロナ禍前まで浦添前田出身の小学生～中学生を中心に約20人(男女)で練習を行っている。 ・保存会の会員は15人程度で、指導は会長や数名の青年が行っている。 ・構成員は、基本的には、前田集落の住んでいる人、嫁いだ人も入れていたが、最近はなくなった。

【南部地区】

市町村名	行政区	No	方言名称	武術的身体表現の形態
			1年中行事名	4 武術的身体操作・表現の分類
21.那覇市	安里	64	■その他 (安里八幡宮例祭・安里金満宮例祭(フェーヌシマ))	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある ■その他(サールー・ゲイイ(トンボ返り)がある)
22.豊見城市	字嘉数	65	■その他(嘉数の棒)	■対面での打ち合い等がある
	字保栄茂	66	■豊年祭	■対面での打ち合い等がある ■その他 (一定の年齢層の男性たちが集団演技する「巻ち棒」がある)
	高安	67	■その他(チナヒチ)	■その他(詳細は不明)
		68	■その他(ガンゴー)	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある
	根差部	69	■その他 (チジグンヌウガミ。綱引きの前のガーエーで、棒や空手が行われた。)	■その他(詳細は不明)
	饒波	70	■その他 (コーヌ祝い。祈願の後に、棒術や空手などを披露する)	■その他(詳細は不明)
	翁長	71	■豊年祭	■その他 (一定の年齢層の男性たちが集団演技する「巻ち棒」があった。1981年に49年ぶりの再演が行われたが、以来今日に至るまで行われていない)
23.糸満市	新垣	72	■豊年祭 (棒術の集団演武や個人演武を行う)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
	真栄平	73	■豊年祭(ジューグヤー)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある ■その他(フェーヌシマ、ガーエー・マキ棒)
	真栄里	74	■その他(チナヒチ)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
		75	■その他(十五夜綱引き)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある ■その他(フェーヌシマ、ガーエー・マキ棒)
24.八重瀬町	世名城	76	■豊年祭	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
	東風平	77	ヌホーン、 あるいはナコーシ	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
	富盛	78	■豊年祭 ■その他(十五夜行事という)	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある
	当銘	79	■その他(龍甲祭)	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある

時期・場所	組織・指導者・伝承方法
5行事が行われる期日(旧暦)	11組織
旧4月15日(金満宮例祭)※アブシバレーの日 旧9月9日(八幡宮例祭) ※現在は旧暦の祭日の次の日曜日に開催。	安里南之島保存会の会員によって伝承されている。復活した平成4年から平成8年までは玉井氏(空手の師匠)、平成8年以降はほぼ玉城氏が会長をつとめている。催事ごとに出演できるメンバーを募り、その日程に都合のつく際はオファーを引き受けている。
なし	<ul style="list-style-type: none"> ・知念三良に師事したのが、比嘉成一郎(1890~1991)、比嘉来助(1904~89)、赤嶺要平(1906~87)、比嘉仁三郎(1900~81)で、それぞれ佐久川の棍、周氏の棍、米川の棍、白樽の棍として今に伝わる。 ・指導を受けた4氏は、嘉数の若者たちに指導を行った。あまりにも激しい稽古の様子から、近隣の集落の人々からいつしか「嘉数棒」と恐れられた。 ・現在は、宇根差部の信武館道場で、指導が行われている。
旧暦8月15日。 前回の2017年(酉年)の場合は、職業や学業の多様化から参加者が集まりやすい旧8月15日直近にあたる10月8日(旧暦8月19日)の日曜日(10月5日(旧暦8月15日)の水曜日には、自治会長らが拝みをたてた)	現在は、十五夜に合わせて実行委員会を結成し開催する。委員会の名称は「十五夜実行委員会」「大豊年祭実行委員会」「豊年祭実行委員会」など、開催年によって変わる。
旧暦6月25日	綱引き行事に関わる諸準備は字の当役が行い、また当役は余興として棒術を披露する
旧暦8月9日 12年に1度の辰年に龕の補修を行い、行列や余興などもある盛大なガンゴが行われるが、それ以外の年は無病息災を祈る御願のみが行われる。	<ul style="list-style-type: none"> ・高安龕ゴウ祭実行委員会を中心として、青年会、婦人会、寿友の会が参加して行われる。委員長は自治会長が務める。 ・次回(2024年)の龕ゴウ祭の開催に向けて、伝統的棒術や奉納舞踊の継承と伝統文化の調査研究などを行うために、高安伝統文化保存会(仮称)設立の検討が行われている(2012年時点)
6月ウマチー(旧暦6月15日)と6月カンチー(旧暦6月25日)の間の吉日に行われた。	不明
・旧暦8月9日 ・特に卯年のコーヌ祝いは十三年マーマイといって盛大に行われる。	不明
旧暦8月15日	不明。
旧暦8月15日の十五夜行事だが、2013(平成25)年より運営上の理由により旧暦8月15日に近い日曜日に開催。ただし、ポーマキの成功と演者の安全を祈願するポーマキウグワン(棒巻き御願)は、変わらず旧暦の8月15日。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営は区長や評議員などの役員と、ジュニンガシラ(十人頭)が中心になって行う。 ・「新垣棒巻き保存会」の役員が練習開始の御願、練習、本番などの場面に立ち会う。
旧暦8月16日の昼に綱引き、17日の夕方にアトウアシビを行う。 明治の頃までは15日の夜に綱引きを行っていた。	ムラ全体が東西のマールーと呼ばれる組に分かれて行事を行う。綱引きでは、ウチワキニン(相談役、東西3人ずつ)、ニンセーガシラ(青年頭、東西2人ずつ)、イーゴーガシラ(連絡係、東2人、西3人)、ジנגガミ(会計係、東西2人ずつ)を選出して、綱引きに関する祭祀や行事を運営する。棒術などの稽古も東西のマールーに分かれて行う。棒術はポーガミー(棒頭)や長老が指導する。
本来は旧暦8月15日の夜に行われていたが、明治の時期にけが人が出たり、喧嘩が絶えなかったため、その後は戦後にかけて旧暦8月16日の昼間に長く行われてきた。しかし、2019年からは参加者などの都合も考慮して、旧暦8月15日を過ぎた最初の日曜日に開催されるように変更	真栄里のムラを東マールーと西マールーの二つの組分けて、それぞれの区域において綱引きにともなう準備や役割分担が行われる。東マールーはアガリカーンマー、西マールーはイリカーンマーの各広場で行うジヌークンタティ(芸能の組み立て)の会議を行う。この会議には各マールーの人たちが参加し、綱引き行事での各役割について話し合いをする。役割が決まると、ウドウイガミ(舞踊係)によるアシビ(遊び)の打ち合わせがある。アシビは大綱引きの時に、東西それぞれが10演目を披露する演舞のことで、それぞれが重複しないように調整する。
旧暦8月16日の昼に綱引き、17日の夕方にアトウアシビを行う。明治の頃までは15日の夜に綱引きを行っていた。	ムラ全体が東西のマールーと呼ばれる組に分かれて行事を行う。綱引きでは、ウチワキニン(相談役、東西3人ずつ)、ニンセーガシラ(青年頭、東西2人ずつ)、イーゴーガシラ(連絡係、東2人、西3人)、ジングガミ(会計係、東西2人ずつ)を選出して、綱引きに関する祭祀や行事を運営する。棒術などの稽古も東西のマールーに分かれて行う。棒術はポーガミー(棒頭)や長老が指導する。
本来は旧暦8月15日の夜に行われていたが、明治の時期にけが人が出たり、喧嘩が絶えなかったため、その後は戦後にかけて旧暦8月16日の昼間に長く行われてきた。しかし、2019年からは参加者などの都合も考慮して、旧暦8月15日を過ぎた最初の日曜日に開催されるように変更となっている。	真栄里のムラを東マールーと西マールーの二つの組分けて、それぞれの区域において綱引きにともなう準備や役割分担が行われる。東マールーはアガリカーンマー、西マールーはイリカーンマーの各広場で行うジヌークンタティ(芸能の組み立て)の会議を行う。この会議には各マールーの人たちが参加し、綱引き行事での各役割について話し合いをする。役割が決まると、ウドウイガミ(舞踊係)によるアシビ(遊び)の打ち合わせがある。アシビは大綱引きの時に、東西それぞれが10演目を披露する演舞のことで、それぞれが重複しないように調整する。
旧暦8月15日以降の土日(拝みは当日行う)	以前は字の役員である十人頭が指導者であった 現在は保存会
旧暦8月15日の次の日曜日。十数年前までは旧暦に合わせて行っていたが現在は日曜日に実施。	戦後、生活様式が多様化し、集落の伝承行事や生活習慣が次第に姿を消した。このままでは消滅してしまうのではないかと危機感が芽生え、一九八九年に富盛伝統芸能保存会、棒術保存会を結成、月二回の稽古日を設けて伝承保存に取り組んだ。
法要年忌(1、3、7、13、25、33年翌年から1年忌と繰り返す)の年にあたる旧暦8月10日	当銘棒術保存会

【南部地区】

市町村名	行政区	No	方言名称	武術的身体表現の形態
			1年中行事名	4 武術的身体操作・表現の分類
24.八重瀬町	志多伯	80	■豊年祭	■型の演武がある、■対面での打ち合い等がある ■その他 (獅子舞の前に座清めとして「舞方」がかぎやで風の曲で演舞される)
		81	■その他 (旧6月ウマチー綱引き、七月綱、敬老会)	■型の演武がある、■対面での打ち合い等がある ■その他 (獅子舞の前に座清めとして「舞方」がかぎやで風の曲で演舞される)
	小城	82	■その他(龕甲祭)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
	友寄	83	■豊年祭	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
	宜次	84	■その他(綱引き)	■型の演武(舞)がある
	安里	85	■豊年祭	■型の演武がある
	坡名城	86	■豊年祭 ■その他(旧暦7月16日:シーサーウークイ)	■型の演武がある ■獅子に対峙しての武術がある
	具志頭	87	■その他 (旧暦8月15日綱曳きの後に行う「村あしび」 または「十五夜あしび」において実施)	■型の演武がある
25.南城市	佐敷津波古	88	■盆行事 (旧暦7月16日 盆の翌日に行われるヌーパ レー行事)	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある
	奥武区	89	■その他(観音堂祭で棒術を披露する)	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある
27.南風原町	照屋	90	■豊年祭(十五夜)	■型の演武がある
	兼城	91	■その他(舞方棒 メーカタポー)	■型の演武(舞)がある
	神里	92	■その他(舞方棒 メーカタポー)	■型の演武(舞)がある
28.久米島町	具志川	93	■その他(字移転記念日)	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある
31.栗国村	字西(前バル原)	94	■その他	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある
	字西(草戸原)	95	■豊年祭	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある

時期・場所	組織・指導者・伝承方法
5行事が行われる期日(旧暦)	11組織
法要年忌(1、3、7、13、25、33年翌年から1年忌と繰り返す)の年にあたる旧暦8月15日、16日に実施。 1946年(1年忌豊年祭)戦後初の豊年祭。 2024年(戦後3巡目の13年忌豊年祭)、2036年(25年忌豊年祭)、2044年(33年忌豊年祭)	2巡目の13年忌豊年祭(1996年)の翌年に「志多伯獅子舞愛好会」その2年後、1999年に「現 志多伯獅子舞棒術保存会」が結成された。伝統の獅子舞の継承と若い世代の活動拠点となるために獅子舞棒術保存会を結成した。コロナ禍になり活動が低迷したことで、志多伯道場(古武道)として開設したところ女性や子どもの参加が急増した。保存会と道場の活動が融合し、活性化に繋がっている。
綱引きは、旧6月15日(ウマチー綱引き)、旧7月15日(七月綱)の年に2回行われ、そのなかで棒術が豊年祭がない年の9月には敬老会が開催され、その中でも複製獅子による獅子舞演舞や棒術が披露される。後継者育成や獅子文化啓発も兼ねている。	
年忌(1,3、7,13,25,33)の旧暦8月10日	邪気除け、座清め
旧暦八月十五夜の豊年祭で行われるが、約25年前から平日では字民の都合がつきにくいという事で、旧暦八月十五日後の日曜日に行われる。	舞台演舞の最初は舞方という棒術で始まる。昭和初期の映像を見ると、棒巻も友寄の名物であったが現在は多人数での棒術は難しい。現在若いメンバーが増えてきているので彼らが意識を持ち続けると復活も可能かと期待する。
3年毎に開催される綱引きの前座、道ジュネー、敬老会、夏祭り等の字行事で披露される	昭和62年 大城氏が字民に対し指導を始める(「シナカチ」「ユニガー」のみ) 平成7年 愛好会結成 平成26年 保存会結成
旧暦8月15日	安里棒術保存会
旧暦の7月16日のシーサーウークイ、旧暦の8月15日の十五夜の日	毎年の字破名城の恒例行事として実施され、伝統芸能の保存継承を目的に保存会が結成された
3年毎の旧暦8月15日に行われる。	根川氏の三男、根川氏(昭和9年生)が伝授。 昭和51年に濱野氏、徳浜氏、崎江氏らにより東り組(アガリンダカリ)青少年棒術保存会が結成され、根川氏が当時の東り組の小学生4年生～6年生までを対象に伝授する。 令和元年に根川氏、徳浜氏、徳浜氏、徳浜氏、崎江氏(元東り組青少年棒術保存会)らが「具志頭棒術保存会」を結成。
旧暦7月16日 ヌーバレー ※戦前は旧暦7月、8月の年中行事で行われていた。「村遊び」では「棒マチ」が行われた。	
観音堂380年祭までは、旧暦9月18日に行ってきたが、385年祭からは9月28日以降の日曜日に開催。参加者の仕事の都合等による。	・保存会が結成され、定期的に練習している。子どもたちにも伝承し後継者育成も行っている。地域の諸行事には子どもたちが行うが、伝承者は観音堂祭でしか演武しない。 ・公民館に棒術の型の写真を展示し、区民に広く伝わるようにしている。
旧8月15日(R5年は翌日の9月30日)	照屋民俗芸能保全会、青年会
敬老会、新年会	兼城区(字の芸能保存会はない)、青年会
十五夜遊び(敬老会)9月頃	神里伝統芸能保存会が舞方棒を継承
字具志川移転記念日(明治28年字仲村渠古島から現在の字具志川松の口に移転した日)旧暦の8月19日を基本として、実行委員会・部落で日程調整し、10年に1度棒術を行っている。平成5年10月9日には、「字具志川移転100周年記念」として三味線、舞踊、民謡ショー、棒術を披露し、盛大に式典が行われた。その後110周年も同様の式典を行った。	以前は実行委員会の組織を形成し、実行委員長を中心に「祝宴部」「式典部」「事業部」を設置し、運営を行っていたが、今年は区長を中心に行事を行う。詳細は今から決定する。
旧暦1月3日、7日、16日	前バル原という地域があるが、現在は棒踊りは行われていない。
旧暦12月31日、元旦、3日	草戸原

【宮古地区】

市町村名	行政区	No	方言名称	武術的身体表現の形態
			1年中行事名	4 武術的身体操作・表現の分類
37.宮古島市	来間区	96	■その他(ヤーマスイ ^o 御願)	■対面での打ち合い等がある
	新里区	97	■豊年祭 (旧暦6月・日は選定する。開催日は毎年5～6月頃に決まり、保存会にも連絡がくる。)	■対面での打ち合い等がある
	上野野原区	98	■豊年祭(旧8月15夜 マストウリヤー)	■対面での打ち合い等がある
38.多良間村	仲筋字	99	■豊年祭(多良間の豊年祭 八月おどり)	■型の演武(舞)がある、 ■対面での打ち合い等がある
	塩川字	100	■豊年祭(多良間の豊年祭 八月おどり)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある

時期・場所	組織・指導者・伝承方法
5行事が行われる期日(旧暦)	11組織
旧暦9月(もしくは8月)の甲午(きのえうま)・乙未(きのとひつじ)の2日間、その最終日の午後に棒術が行われる。村落の神女による祈願はその前の辰の日から最終日までの四日間	ブナカは、長男スミリヤブナカ、次男ウパーブナカ、三男ヤーマスブナカの3つであり、村落の構成員はいずれかのブナカに所属している。棒術の集団は、3つのブナカごとに作られる。それぞれ棒振り役15名(3人棒×5列)、鉦打ち役1名からなる。またブナカごとにヤライシシュー2名がいて、最終日の棒術などの演舞の時間調整・連絡などを担当する。
旧暦6月 ※日取りを選ぶ。	①青年会。青年会が棒術を担当していた。棒術は10名1組。以前は2組あったが、若者が減って1組になった。いつ頃から変わったのかは不明。棒の編成は5名(前棒2名・中棒1名・後棒2名)×2。他にナリモノ(横笛1名・鉦1名・太鼓2名・ホラ貝4名)の役がある。棒術は高校卒業後に加入し、25歳頃まで活動していたが、近年は人が少ないため30歳代もやっている。長男次男の関係はなく、地元に残る青年は皆棒術やシン舞いを担当した。 ②保存会。現在もシン舞いと棒術は青年たちが担当するが、特に保存会と協力しながら実施している。「新里民俗芸能保存会」は、豊年祭で行う芸能全般を保存継承する目的で作られた。結成時期は不明。現在会員は30名余りで、年配の経験者が多い。年間の活動としては、5月頃に総会があり、他に毎月のモアイをしている。豊年祭の芸能は保存会が中心になって指導する。
旧暦8月15日夜	村落内の4組がそれぞれに伝承の組織になっている。組の住民のうち青年の男性が中心となり、5名1組で棒術を担当する。同時に行われる女性の踊りは組別ではなく、野原区全体で組織されている。
旧暦 8月8日.9日.10日	多良間村民俗芸能保存会 仲筋字会 中に10座ありその中の1つの座、「獅子座」(スース座) 成年団員が獅子舞とポーアース(棒合わせ)を演じ15人程度で構成される。演武は、獅子舞獅子2人・舞手1人。棒踊り ニーニン棒 2人、トウ棒 2人。民俗踊り:キネツキ踊り・臼引き踊り(復帰後だんだんに成人女性が踊るようになった。)
旧暦 8月8日.9日.10日	多良間村民俗芸能保存会 仲筋字会 中に9座ありその中の1つの座、「獅子座」(スース座) 成年団員が獅子舞とポーアース(棒合わせ)を演じ15人程度で構成される。演武は、獅子舞獅子2人・舞手1人。棒踊り ニーニン棒 2人、トウ棒 2人。民俗踊り:ユリツキ踊り・女ヨンシー(復帰後成人女性が踊るようになった。) ヨーンシー(成年男子が踊り塩川字のみが演じる。)

【八重山地区】

市町村名	行政区	No	方言名称	武術的身体表現の形態
			1年中行事名	4 武術的身体操作・表現の分類
39.石垣市	登野城	101	■豊年祭(オンブール)	■型の演武(舞)がある、 ■対面での打ち合い等がある
		102	■その他(結願祭)	■型の演武(舞)がある、 ■対面での打ち合い等がある
	石垣	103	■豊年祭	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある ■獅子に対峙しての武術がある
		104	■その他(結願祭)	
		105	■その他(牛ヌ願)	
	平得	106	■その他(結願祭)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
	真栄里	107	■盆行事 ■その他(郷土芸能発表会S40～S47 2月)	■獅子に対峙しての武術がある
	大浜	108	■豊年祭(ツナヌミン)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある ■獅子に対峙しての武術がある
		109	■その他(イタシキバル)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある ■獅子に対峙しての武術がある
		110	■その他(共進会)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
	宮良	111	■その他 (結願祭(きつがんさい)、その他、イベント等でも演舞。)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある、
	白保	112	■その他(十五夜 旧暦:8月15日)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
	新川	113	■豊年祭(ツナヌミン)	■対面での打ち合い等がある
		114	■その他(南島(フェーヌシマ))	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある ■獅子に対峙しての武術がある、
	川平	115	■その他(結願祭・節祭)	■対面での打ち合い等がある
40.竹富町	竹富	116	■その他(種子取祭)	■対面での打ち合い等がある ■芝居の中で武術的所作が演じられる ■その他 (奉納芸能の中で棒踊り棒術が見られ、腕棒は素手で演じられ、女性が舞う。)
		117	■その他(十五夜祭)	
	小浜	118	■その他(結願祭)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある ■芝居の中で武術的所作が演じられる
	黒島	119	■豊年祭 ■その他(旧正月、結願祭)	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある ■獅子に対峙しての武術がある ■芝居の中で武術的所作が演じられる
	古見	120	■その他(結願祭)	■型の演武(舞)がある
	祖納	121	■その他(節祭)	■対面での打ち合い等がある
	千立	122	■その他(節祭)	■対面での打ち合い等がある

時期・場所	組織・指導者・伝承方法
5行事が行われる期日(旧暦)	11組織
豊年祭(オンブール、旧暦6月)	青年会組織を中心とした若者が演武を担い、経験を積んだ青年会OB等が組織運営を行うための師匠(1名)や副師匠(1名)の役職を担う。また、近年では現役世代が役職を担うようになってきたことから、副師匠を2~3名、会計も加えた組織に変化してきている。
結願祭(旧暦8~9月):12年に1回、寅年に開催される。	青年会組織を中心とした若者が演武を担い、経験を積んだ青年会OB等が組織運営を行うための師匠(1名)や副師匠(1名)の役職を担う。また、近年では現役世代が役職を担うようになってきたことから、副師匠を2~3名、会計も加えた組織に変化してきている。
豊年祭 オンブール 7月後半から8月前半(旧暦6月)	石垣字会
結願祭旧暦9月(6年に1度だが前はコロナの影響で2年ずれる)	石垣字会
牛又願い旧暦2月(2年に1度)	石垣字会
12年毎に御嶽及び公民館の決定により行う。	平得獅子舞棒術旗頭同好会
2月に芸能発表会	
豊年祭の二日目の村プールにて行われる。太陽が沈み、旗頭に明かりが灯される頃に棧敷に乗って演じられる。	大浜獅子棒保存会
旧盆の送り日の翌日に獅子舞と一緒に演じられる。	大浜獅子棒保存会
特に定められた期日はない。優良農家を表彰する式典のアトラクションとして演じられる。	大浜獅子棒保存会
神年とされる子年、寅年、午年、酉年の旧暦10月頃。	明治から大正、昭和初期までは、個人道場が技術をもって村行事に協力する関係性であった。昭和20年代に、保存会が結成され、公民館の傘下団体となり現在に至っている。
毎年十五夜(旧暦:8月15日)の夜に行われる。	「白保棒術保存会」として独立した組織がある。会長以下役員及び会員により組織される。また、歴代の打ち手である師匠(1名)により棒術の指導がなされる。
旧暦6月のカンピューリイ(神日和)と呼ばれる癸や甲の日とその翌日の2日間にわたり豊年祭は行われる。その2日目の夕刻に行われる。	2日間にわたり豊年祭は行われるが、その2日目の夕刻に登場し演じられる。余興は2日目の祭祀行事の終了後、西へ移動して、日の入りで西の空が赤く染まった頃合いに松明を焚いた中で開始され、暗くなった頃に両者の勝敗はつかないまま終了となる。その後、綱引きが行われ勝敗は決まる。近年は、子どもたちの参加もあり、時間帯を早くしてほしいとの声がある。
特に定められた期日はない。お祝い等で演じられる。令和5年は旧盆の送り日(オクリビー)に行われる獅子祭の前に演じられた。	新川字会、南風ぬ島カンター棒保存会
結願祭:旧暦の8月頃	主に青年会や青年会OB等で結成される「川平棒・太鼓・獅子保存会」取り組んでいる。
節祭(シチ願い)から49日目の前後10日間に行われる	公民館長が祭主となりすべての祭りを取り仕切る。玻座間集落、仲筋集落に狂言部や舞踊部があり、玻座間狂言保存会、仲筋狂言保存会があり、演目は決まっている。
旧暦8月15日	
結願祭	石垣島の川平地区からの伝承だとされる
豊年祭⇒旧暦の6月 結願祭⇒7月(旧盆の時期を外して) 旧正月⇒旧正月	東筋(あがりすじ)、仲本、宮里、保里(ほり)、伊古(いこ)の5部落があり、それぞれで行事を担っている。
旧暦8月の結願祭で奉納する。令和になってコロナ等で今日まで祭りは行われていません。	村の祭りに戦前、戦後、復帰後の変化はない。先人から受け継いだ伝統文化変わることなく継承している
10月の己亥(つちのとい)の日から3日間 2日目は「ユークイ」と呼ばれ、奉納芸能を実施	公民館の青年部にて実施(70人~80人)
10月の己亥(つちのとい)の日から3日間 2日目は「ユークイ」と呼ばれ、奉納芸能を実施	公民館の青年部にて実施

【八重山地区】

市町村名	行政区	No	方言名称	武術的身体表現の形態
			1年中行事名	4 武術的body操作・表現の分類
40.竹富町	船浮	123	■その他(節祭)	■対面での打ち合い等がある
	鳩間	124	■豊年祭 ■その他	■型の演武がある ■対面での打ち合い等がある
	波照間	125	■豊年祭(ムシャーマ)	■対面での打ち合い等がある ■その他 (対面での打ち合いだが、本来は体に当てずに寸止めするのが正式)
41.与那国町	西村	126	■豊年祭	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
		127	■その他 (棒座師匠(チス)の世代交代の行事)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
	東村	128	■豊年祭	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある ■獅子に対峙しての武術がある(武術はないが、紐付きの玉を持って踊る)
		129	■その他 (チムパタイという棒座師匠(チス)の世代交代の行事の世代交代の行事)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある ■獅子に対峙しての武術がある(武術はないが、紐付きの玉を持って踊る)
	嶋仲	130	■豊年祭	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
		131	■その他 (チムパタイ ※公民館長及び棒座チスの世代交代の行事。嶋仲の場合は、棒座と館長のチムパタイは一緒に行う。)	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある
比川村	132	■豊年祭	■型の演武(舞)がある ■対面での打ち合い等がある ■獅子に対峙しての武術がある→武術かどうかはわからない	

時期・場所	組織・指導者・伝承方法
5行事が行われる期日(旧暦)	11組織
10月の己亥(つちのとい)の日から3日間 2日目は「ユークイ」と呼ばれ、奉納芸能を実施	公民館
豊年祭のナカピ⇒旧暦の6月(新暦7月後半)	西(イリ)、東(アガリ)各公民館
旧暦7月14日(旧盆)	前、西、東の各公民館
本来、ウガンフトウティは、旧暦6月の庚または辛の日(その日と前日と後日の3日間に丑や酉の日が当たらないような日)に行われるが、近年、祖納のウガンフトウティは、祝賀会に多くの人に参加できるように、旧暦6月の日曜日(前日から後日までの3日間に、丑や酉の日が当たらない日)で計画されている。	かつては、各家庭はいずれかの座に属して代々受け継がれてきたため、棒踊を踊る家庭も決まっていたが、最近では生活様式の変容や特に後継者不足のため、これまでの強固な座の体制は弱まっている。現在、西棒座においては、「チス」という師匠を1名置き、その下に「ナガチス」を1名以上置いている。最近では会計係も置いている。以前は、座に所属する各家庭から集金して、年間の支出に充てていたが、現在は報酬のある草刈りの事業を受けて、収入を得ている。
チムバタイは、2年に1度で、4月～6月頃に行われる。日程の詳細はそれぞれ、新しい棒座師匠(チス)が決める。	かつては、各家庭はいずれかの座に属して代々受け継がれてきたため、棒踊を踊る家庭も決まっていたが、最近では生活様式の変容や特に後継者不足のため、これまでの強固な座の体制は弱まっている。現在、西棒座においては、「チス」という師匠を1名置き、その下に「ナガチス」を1名以上置いている。最近では会計係も置いている。以前は、座に所属する各家庭から集金して、年間の支出に充てていたが、現在は報酬のある草刈りの事業を受けて、収入を得ている。
本来、ウガンフトウティは、旧暦6月の庚または辛の日(且つ、その日と前日と後日の3日間に丑や酉の日が当たらない日)に行われるが、近年、祖納のウガンフトウティは、祝賀会に多くの人に参加できるように、旧暦6月の日曜日(前日から後日までの3日間に、丑や酉の日が当たらない日)で計画されている。	東棒座には、「チス」という師匠が1名いて、その下に「ナガチス」1名、「ナガキリ」1名置いている。チスは、チムバタイでの祝儀を管理し、年間にかかる出費に充て、不足分は自弁している。
チムバタイは2年に1度で、大体4月～6月頃に行われる。日程の詳細はそれぞれ、新しい棒座師匠(チス)が決める。	東棒座には、「チス」という師匠が1名いて、その下に「ナガチス」1名、「ナガキリ」1名置いている。チスは、チムバタイでの祝儀を管理し、年間にかかる出費に充て、不足分は自弁している。
本来、ウガンフトウティは、旧暦6月の庚または辛の日(且つ、その日と前日と後日の3日間に丑や酉の日が当たらない日)に行われるが、近年、祖納のウガンフトウティは、祝賀会に多くの人に参加できるように、旧暦6月の日曜日(前日から後日までの3日間に、丑や酉の日が当たらない日)で計画されている。	かつては、各家庭はいずれかの座に属して代々受け継がれてきたため、棒踊りを踊る家庭も決まっていたが、最近では生活様式の変容や特に後継者不足のため、これまでの強固な座の体制は弱まっている。現在、嶋仲棒座においては、「チス」という師匠がいて、その下に「ナガチス」と会計係をおいている。会計係は、嶋仲公民館から支給される活動費やその他の収入(祭事の祝儀など)を管理し、年間にかかる支出に充てている。
チムバタイは、2年に1度で、大体4月～6月頃に行われる。前年度の総会以降の日で、日程の詳細は、新しい公民館長が決める。	かつては、各家庭はいずれかの座に属して代々受け継がれてきたため、棒踊りを踊る家庭も決まっていたが、最近では生活様式の変容や特に後継者不足のため、これまでの強固な座の体制は弱まっている。現在、嶋仲棒座においては、「チス」という師匠がいて、その下に「ナガチス」と会計係をおいている。会計係は、嶋仲公民館から支給される活動費やその他の収入(祭事の祝儀など)を管理し、年間にかかる支出に充てている。
ウガンフトウティは、旧暦6月の庚または辛の日(且つ、その日と前日と後日の3日間に丑や酉の日が当たらない日)に行われる。	棒座に会計はなく、支出があれば公民館の会計から支払われる。棒座の1年の活動は、主に豊年祭(ウガンフトウティ)の10日前から始まる練習である。棒座には、「チス」と呼ばれる座の師匠が置かれる。

<別表>

地区	市町村名	行政区	No	方言名称 1年中行事名	武術的身体表現の形態 3. 武術的身体表現・表現の形態
北 部	1. 国頭村	奥	1	■シヌグ (フーヨーサレー行事と ピンクウイ行事)	ピンクウイの長壽祈願の行事で一行の先頭、空手を演じる方2人、棒術を演じる方2人がいる。「ライ」と「ボー」(歩きながら、道ジューネーの先頭を務める) ※集落で一番長老(男性のみ、桶長老/戦前は慶徳2年生まれ、屋号「徳門仲」の金城定敬を担いだこと証言まで遺れる。チョウロー(長老)昭和12年対象。昭和17年)奥での最高年齢者の男性を飾りつけた「ウヒ」に兼任。若衆(カタマヤ)と呼んでいる。戦後間もない頃は青年だけで来た)担ぎ、反時計回りに手を置きながら練り歩く。その際に、「ピンクウイ、ユイ、ヤサ…」のかけ声で担ぎあげた桶を天に突き上げながら練り歩く。男性のみで担ぐ。女性はウステークで迎える。
	2. 大宜味村	鏡波	2	■シヌグ・ウングジャミ	棒術
		字大兼久	3	■ゾーガリー	クーサンクーと呼ばれる型の演舞がある。大まかな型の所作は決まっているが明確な型の決まりはなく、アンビの中で先輩から後輩へ見よう見まねで受け継がれている。
		謝名城	4	■豊年祭 (謝名城の豊年祭)	長者の大王の中で、空手の型を奉納する
		今泊	5	■豊年祭 ■その他(村芝居)	古武術としての棒術というより、庶民的ハナ棒(棒踊りの一種)である。(「今泊誌」)
	4. 今帰仁村	仲宗根	6	■その他(村踊り)	銅鑼の調子に合わせて演ずる棒術で、チュイボー(一人棒)、タイボー(二人棒)、などの組棒があった。また専門家が一人て演ずる棒や、大勢でぎやかな演技もあった。(「仲宗根誌」)
		湧川区	7	■その他(村踊り)	ガク、ドラ、太鼓の音に合わせた掛け声と共に演舞する(「湧川誌」)
	5. 本部町	瀬底	8	■豊年祭(村踊り)	棒巻(ボウシカ)と呼ばれ、ウチン毛で巻巻き(スーマキ)を終えてから舞台上道ジューネーの踊りの次に棒の演舞が行われる。
		伊野波・並里	9	■豊年祭(村踊り)	寸留めで棒同士をぶつけないことにごろがけている。
		浜元	10	■シヌグ・ウングジャミ	
		数久田	11	■その他 (南島(フェースマ)※北 中城村指定無形民俗文化財)	
			12	■豊年祭	数久田では「ボ-」(棒)と呼ばれる棒術が披露される。数久田の棒は他の区からオーイボ- (けんか棒)といわれ、組棒では真剣に棒を打ち合う激しき有名である。『「名護市史 芸能編」』
		真喜屋・稲嶺	13	■豊年祭 編りきで東側が刀と西側がナタをもった抜司が合せる。道ジューネーは「棒」もある	真喜屋(南側)と稲嶺(北側)で神アシヤキと舞台の間の綱引きが終わった後で、棒がある。「棒法」人数22名。全員による棒「スーマキ」。その後二人一組による棒「棒棒」(15種)がある。
			14	■豊年祭	仲尾次では「ボ-ボ-」(棒方)と呼ばれ、棒の演舞が行われる。
	6. 名護市	田井等・親川	15	■豊年祭	棒の出演者は、棒方(ボウカタ)と呼ぶ。「田井等・親川の獅子舞の由来」の書き物の中に、「…踊る時間は二十分。踊る手は唐手の九三九と称し、今より七十年前親川孝一氏の振付けで授けられた。『「名護市史研究資料第91集 芸能調査資料5 羽地地区の芸能」』 359-360p.p.
		振慶名	16	■豊年祭	
		古我知	17	■豊年祭	
		我部祖河	18	■豊年祭 (踊りの開演前と終了後)	
			19	■豊年祭	我部祖河では「ボ-」(棒)と呼ばれる棒術が披露される。棒は二人が対面で行う組棒とボウホウ(棒方)全員で行うスーマキ棒(総巻棒)がある。
		呉我	20	■豊年祭	
		屋我	21	■豊年祭(ムラウドウイ)	空手の演目は、屋我地区の児童・生徒が松田氏の空手指導を受けているが、屋我地他地区で豊年祭で演武するのを参考にした(2005年現在)
		久志	22	■豊年祭(ムラウドウイ)	ムラウドウイの演目の中には、「メ-カタ」とよばれる空手を舞化したものがある。
		辺野古	23	■豊年祭(ムラウドウイ)	ムラウドウイの演目にメ-カタ、古くはコーサンクーと称す。別称「サ-グキウドウイ(舞台を決める舞、古武術的な形の力強い舞)」「辺野古誌」p.655
8. 宜野座村	宜野座区	24	■その他 (宜野座の八月あしび)	宜野座の八月あしびに伴う武術的操作・表現としては、宜野座スタンド(ノロ殿内)・大川技司の屋敷跡・根屋の拝所で奉納される舞踊の中に「棒(6尺2人棒)」がある。その後「道ジューネー」を経て舞台芸能の会場である「平松毛」にて、再び「棒」が演じられる。八月あしびの舞台芸能の演目としては、「獅子舞」で舞方が「コーサンクー」の音曲で登場して舞台の座を清める。また、舞踊では空手の技法を取り入れた「前之浜」、組踊「伏山敵討」は武術的身体表現・表現がある。	
	金武区	25	■その他(観月祭)	金武区のなごなはメリハリがあって、ピンポンと胴着のなる音が特徴的であり、演舞のキレなを大事にしている。	
	26	■その他 (旧暦八月十五日)	スナイ棒(マチ棒ともいふ)のあと、一斉棒演技(二人組棒・三人組棒の棒術(金武区誌・戦前編)P309)		
		27	(1)スナイボ- (テクラボ-) ドラや太鼓、フラ(ホラ貝)、ドラのリズムにのせて体形の変化を工夫して行進する・クラ巻・マチボ- (蝶線状) (2)一斉棒(基本動作) (3)組み棒・タイボ- (二人組)・ミツチャイボ- (三人組)「並里区誌」戦前編P298 ①「サ-サー」・「サ-サー」と声を掛け合い、6尺棒で(スナイ棒)で土気を高め合い「ス-マキ棒」マチ棒を行う。ス-マキ棒は滑の平滑なヒントに連帯を表現したもの。マチ棒とはテクラマチともいふ、テクラという魚の群れに石を投げ入れ、逃げ惑う魚と水の波紋をヒントに考えられたものである。 ②型の演技「基本棒」全員、2人で行う「甲乙」、3人で行う「三人棒(みつちやい棒)」、5人の「五人棒(ごにんぼう)」でドラ・太鼓・ボラに合わせた演じられる。(並里伝統芸能保存会)		
9. 金武町	並里区	27	■その他 (十五夜村あすび)		
	宇伊芸	28	■その他 (旧暦8月15日の観月祭)	棒(六尺・三尺)、ジ-ノー、サールゲー	
10. 伊江村	西江上区	29	■その他 (西江上区民俗芸能発表会・伊江村民俗芸能発表会 他)	3・3つある場面の内一つに、六人の鬼が二人一組で相対し、棒を打ち合い、踊る場面(第一場面)がある。	
	西崎区	30	■その他 (西崎区民俗芸能発表会・伊江村民俗芸能発表会 他)	銅鑼やボラガイが鳴らされ、二人一組で棒などを打ち合う演舞を行う。	
35. 伊平屋村	我喜屋	31	■その他(綱引き)	綱引きの前に東である内村と西である兼久双方が体をぶつけ様あり、力比べのような「ガ-エー」と呼ばれるものが女性から始まり、次に男性のぶつかり合い、2度行われる。そこに、内村からは阿麻利、兼久からは護佐丸に扮した2人の若者がハンルーと呼ばれる木の上の棒に担がれ登場し、一騎打ちとなる。	
36. 伊是名村	中田・伊是名・勢理勢・諸見	32	■シヌグ・ウングジャミ	クーサン(棒)を杖状に構え、地面や家屋内(拝所含む)を練り歩きながら、床面をトントンと打ち鳴らしながら、「ワン」・「サ-サー」・「ボ-」や「ウササ」・「ホセ」・「ホセ」などいふ、度のある拝所や住宅では、2人1組や3人1組で棒術の型を披露する。	
中 部	11. うるま市	具志川 田場	33	■豊年祭(十五夜)	型の演武(ティンペ-の手、ナギナタの手、エ-クの手)
			34	■豊年祭(旧盆)	型の演武(ティンペ-の手、ナギナタの手、エ-クの手)
			35	■その他(新年会・夏祭り)	型の演武(ティンペ-の手、ナギナタの手、エ-クの手)
	与那城 宮城	36	■その他(15歳祝ひ)	空手の型をまたた各自創作型を演武。	

地区	市町村名	行政区	No	方言名称 1年中行事名	武術的身体表現の形態 3. 武術的身体表現・表現の形態
中 部	13. 読谷村	座喜味	37	■その他(敬老会(9月))	演武者は「棒チカヤ」と呼ばれる、棒術を演武する前に全員でス-マキ(総巻)を行う。他字の棒術と比べ、何よりも「実践型」で常に相手の急所を狙って攻める戦いが特徴である。
			38	■その他 (総合共進会(12月))	
		宇座	39	■豊年祭	「棒術「ボ-チカ」」・「エイサー(旧暦7月16日「ウクイ」)には、エイサー演舞のつなぎに演舞。・「ジュウグ- (旧暦8月15日 観月会)には、組踊り・舞踊と組み合わせて演舞する。
	40		■その他 (シチクアチエイサー・ジュウグ- (旧暦八月十五日 観月会))		
		波平	41	■豊年祭	波平盆行事波平観月会に、14種の組棒(組手)が継承継続し、ハンジ棒・エイサーと組み合わせて演武します。
	42		■その他(観月会)	波平盆行事波平観月会に、14種の組棒(組手)が継承継続し、ハンジ棒・エイサーと組み合わせて演武します。	
		長浜	43	■その他 (役員敬送 迎会、敬老会、新年合同祝)	①足切り右手斜上に振り上げ、左から相手の足を払う。 ②大割、上段高(振り上げ、相手の頭上肩間に打込む。 ③ふす技(相手のへそを突く技。 ④ウ-と切り相手の腕ガキを切る。 ⑤カチ切り相手の肩を打ち落とす技。 ⑥突手:左手先に相手の股間を突く。 ⑦うら切り:上段で棒を一回振り回して、相手のウラから打込む。
	14. 嘉手納町		野里	44	■その他 (5月小 グングウチャー・グ- (旧暦の5月5日))
		下勢頭	45	■その他 (祝賀行列や出演依頼の際に行う。)	組み手の演武(舞)は、2人1組の組み手(組棒)を複数組が順番に行う。二人で棒を、打ち合いを行う。棒をよけるために飛び上がるなどの動作もある。
	15. 北谷町	北谷	46	■豊年祭	フェ-ヌシマは、棒を振り回したり、打ち合う「棒巻」。空手の型の「手」。「ダツムツチー」がある。「ダツムツチー」は、二人組み合わせて相手の股間の頭を入れて腰を抱えて抱き合うようにして後方に回転する。
	47		■その他 (12年(黄年)の「北谷大綱引き」、戦前は、毎年9月に行われる「北谷長老祭」や「ムラアビ」でも演じられた。)		
	喜舎場	48	■その他 (獅子舞 ※北中城村指定無形民俗文化財)	獅子舞は、はじめに一人の男(ウクヤー)がまりを両端に結びつけたひもを首にかけてまを振りながら獅子を誘い出して始まる。獅子の胴体には二人の男がはいる。三線、太鼓、ドラに合わせて獅子舞を演じる。『「北中城町の文化財」北中城村教育委員会』	
		49	■その他 (南島(フェ-ヌシマ) ※北中城村指定無形民俗文化財)	先に金環をつけた棒を打ち合ったり、振り回して威嚇したり、野性味を出してあど。『「北中城町の文化財」北中城村教育委員会』 前半:南島歌 幕内で三線の南島の曲を弾き始めると、舞台下手から踊り手八人が、ハウ-、ハウ-と奇声を発しながら出てコーマチ(棒)を作る。歌が始まると、歌に合わせてゆくりゆくりと振り回して踊り始める。両手の拳を拳で叩いて、両手でひまづ棒をしたり、両手を交互に打つてくる回したりする。 後半:三工節 三工節に変わると、一の棒、二の棒、三の棒、四の棒の順に連続して棒の打ち合い、跳躍と激しい演技がある。特に三の棒のミ-ズジ(目貫き)、カマチウイ(頭割り)、四の棒のチンシウイ(膝割り)などは、緊張を要する危険な組み手である。これらの演技を済ませると、再びホウ、ホウと奇声を上げながら上手に進場する。『「北中城村史 第二巻 民俗編」』	
	16. 北中城村	島袋	50	■その他(島袋まつり)	奇数組、偶数組が一列縦隊になり会場内を両サイドに分かれて周回する。総巻きとハリ棒と呼ばれる組み手で構成される。中央付近で交差する時、右側側にかまえている棒の方をお互い相手側に少し出しすれ合う時にお互い棒を交差しあう。『「北中城村史 第二巻 民俗編」』
			51	■その他 (赤木名節 ※北中城村指定無形民俗文化財)	赤木名節は、琉球王朝時代から伝わる二才(ニーセー)踊りで、1番から4番までの振りでは空手の異なる受けの型を取り入れている勇壮で活発な踊り。「踊りは二歳踊りで、特徴は空手風の勇壮、活発な振付にある。『「北中城村史 第二巻 民俗編」』
		52	■その他 (敬老会「赤木名節」)	赤木名節は男性によるニーセー(二才)踊りで、空手風の踊り。赤木名節は近隣の村にはない演目や独特なものである。	
		53	■その他 (旗すくい・夏まつり)	大城地区と牧道地区の兄弟棒(各地区代表)	
	大城	54	■その他(旗スガシー)	旗道自治会と大城自治会代表による約束組棒(兄弟棒・ブ-ブ-)	
			55	■その他 (旧暦6月の綱引き)	「以前は、綱引き行事で炬火をたき、けんか棒を競い、弱い方は危険であった。」と記されている。『「大城の今昔」仲村宗孝』
18. 西原町	小波津	56	■豊年祭	「棒チカヤ」と呼ばれる。綱引きの前に土気高揚のため、「一人棒(チュイボ-)」や「ハンジ棒」という組棒を演舞する。	
	57	■豊年祭	盆踊りや八月十五夜(獅子又御願と七年ま-る村遊び)には、一人棒や組棒の演舞を行う。		
		58	■その他 (七年ま-る村遊び)	「棒チカヤ」と呼ばれる。	
	前田原	大謝名	59	■その他 (舞方(メ-カタ))	棒術と獅子舞には棒や空手の型を取り入れた演舞がある。
			60	■豊年祭 (大謝名の獅子舞、獅子舞の前に棒術と舞方を行う)	獅子舞の前に棒術と舞方を行う(添付参照:棒術①・棒術②、舞方)
19. 宜野湾市	野嵩	61	■豊年祭 (野嵩マ-ルアジビ)	組踊(昔は「宜野湾敵討」「八重瀬」「忠臣護佐丸」、現在は「忠臣護佐丸」のみ)の中に棒術や殺陣を取り入れている。『添付参照:演舞①②』 ボウマチ(棒巻)	
	新城	62	■その他(ムラアジビ)	戦前組踊「本部大主」(国吉の比屋「伏山敵討」「手水の縁」「森川の子」(忠孝人)で棒術や殺陣が取り入れられている。	
			■その他(ムラアジビ)	棒巻:ボウマチ(棒巻)三尺又は六尺の棒を持ち、最初は法螺貝の音に和して一列に進み蝶巻を巻きを解いた。それから二人ずつ打ち合いの型をやり、又渦巻をやって退場した。之を芝居の前後に2回行った。現在は組踊で使うのは短刀のみで空手の要素はない。	
20. 浦添市	前田	63	■豊年祭 (綱引きと村芝居(近年村芝居なし)綱引きの後で「棒い」とよばれる棒術を行う)	「棒つかい」と呼ばれる。綱を引き終えたら、その後1時間ばかりの間に、ガ-エ、旗頭持ち、棒、空手を順序にしたがいで演武した。	

地区	市町村名	行政区	No	方言名称 1年中行事名	3. 武術的身体表現の形態 3. 武術的身体操作・表現の形態	
21. 那覇市	安里	安里	64	■その他 (安里八幡宮例祭・安里金盃遊覧祭(フェースマ)	フェースマ芸術 祈願のあとに演じられる。棒術、ヒュータン踊り、サークル・ゲームの三つが揃っている。	
			65	■その他(嘉数の棒)	「嘉数棒」や「嘉数の棒」と呼ばれる。	
	宇嘉数	宇嘉数	66	■豊年祭	奉納舞踊としての棒術、サイバ 棒の集団演技「巻ち棒」、「巻ち棒」の中に構成される組棒 (「ヒチザンシー」と総称される)	
			67	■その他(チナヒチ)	・余興として棒術を披露する	
	高安	高安	68	■その他(ガングー)	棒術の奉納と空手の演舞 棒術は行事全体を通して奉納・披露され、空手は祭事の 終了を祝して行われる「コミュニケーション」で披露される。	
			69	■その他 (チジグナウガミ、綱 引きの前のガーエーで、 棒や空手が行われた。)	綱引きの前に、棒や空手、歌舞などによるガーエーが行 われた。	
	根差部	根差部	70	■その他 (コヌ祝い、祈願の後 に、棒術や空手などを 披露する)	・祈願の後に、棒術や空手、舞踊などを披露した。	
			71	■豊年祭	集団演技としての「巻ち棒」は、1981年(酉年)の再演以 来、演じられていない。 巻長の巻ち棒の型は「グヤー棒」、「グヤーマチ」と称され ていたという。 現在では余興などの一演目として棒術や空手が披露され ている模様。	
	22. 豊見城市	豊見城市	豊見城市	72	■豊年祭 (棒術の集団演武や個人 演武を行う)	十五夜に行われる宇新垣の伝統行事で、公民館前の広 場で集団演武と個人演武あわせて約1時間かけて披露さ れる。四方巻きとも呼ばれる集団演武のマクン(巻の意) は新垣のボーマキの大きな見せ場のひとつ。個人演武 では、1対1の対戦形式で行われるタンカーボー(一対一 棒)、2人並んで同じ型を見せるダンスボー(二人棒)、2対 1のサンニボー(三人棒)などがある。そのうち、タンカ ーボーは「アリンカウイリンカウ」からそれぞれ1人1 ボウで、悪(かし)などの堅い木で作った六尺棒で対戦す るもので、激しく打ち合うためオーエーボー(喧嘩棒)とも呼 ばれる。ダンスボーは通常2人で行うものだが、新垣では1 人で行うことが多い。
				73	■豊年祭(ジューギャー)	大きく分けてタンカーボー(タンカーは一対一の喧嘩の 意)、タンナー(二人棒)、サンニボー(三人棒)、トウ ンボー(股棒)の4種類があった。 タンカーボーは東西からそれぞれ1人ずつが出て1組に なり、1対1の対戦形式で行う組棒である。タンカーボーの 相手は13歳のミーボーグー(新棒グー)の時に決まり、 その組み合わせは生涯を通じて変わらなかったため、特 に親しい者同士が組むことが普通であった。組んでいる 相手が不在の場合は、演武の後半で相手のない者同士 がそこで組んで演じ、これをヒリーボーといったり、ヒ リーの意味は不明である ダンスボーも2人で演武するが、タンカーボーのように戦 うのではなく、並んで同じ型を見せる棒であった。これは相 手を2、3年ごとに交替して若者たちが型を引き継いだ。 サンニボーは名称のとおり1対2の3人組で演ずる組棒 で、1人は六尺棒、2人は三尺の短棒を持って戦った。い ずれのボーより激しく戦うのが特徴で、時に怪我をする恐 れもあった。トウンボーは基本的に2対2の4人組棒で、ウ フウ(大殿)の揮子で行うことからこの名称が付いたとい われている。これらはタンナーと同じく2、3年ごとに組 み合わせを交替して行うが、必ず東西を全員を2組に分け て、また、ボーマキ(棒巻)といって参加者全員を2組に分け て、それぞれの隊列が数分間に参加者全員を2組に分け てと隊形を変えていく集団演武がある。各組の先頭が それぞれ棒と長刀を持って先導役を務め、ほかの参加者 はそれに続いて棒の下端を胸の高まで握り、ヤグイーと いって威勢のいい掛け声を発しながら棒の上に突きあげ て演武する。これはスーマキ(総巻)とも呼ばれているが、 左右から進んできた2つの隊列が、ぐるぐると回りながら 1つになっていく様子が、まるで渦巻のように見えることから スーマキ(潮巻)の意味であるといわれる。
23. 糸満市	糸満市	糸満市	74	■その他(チナヒチ)	綱引き当日、東はカッチャヤマで女性達が踊ったり、若者 が棒術を披露する。西はイヤーカマーの広場で同様に 踊りや棒術を披露する。また、綱を引く前に引いた後に 槍に三角旗をつけた棒術や棒術の演武が行なわれる。 翌17日にもアウアと(後述)といふ簡略化した行列 を行なった後、東西それぞれの広場で棒術や踊りをして 楽しむ。	
			75	■その他 (十五夜綱引き)	真栄里の綱引きはアガリ(東)マールとイリー(西) マールの組に分かれて行われる。綱引き前のガーエー(示 威的行為)の一環として棒術などが行われる。公民館前 のメーミチの広場で演武の場所になる。ガーエーは一般 には綱引きの前に男たちが激しく組み合う様子を指すこ とが多いが、真栄里では「棒ガーエー」「ツツン(鼓)ガ エー」「チナ(綱)ガーエー」などという言い方がある。このち とくに武術的な身体操作に関係するものが「棒ガーエー」 である。 双方の綱が広場に到着すると、綱はいったん脇に寄 せられ、最初はアガリとイリーの棒旗が二人組となっ て互いにのみみ、三角旗の旗を付けた棒をかた り、突いたして中央まで進む演武が行われる。棒旗によ るガーエーである。この「棒ガーエー」には基本的には4種 があるという。ヘーヒカグサン(一人で行う演技)、タンカ ーボー(2人が向き合って打ち合う棒)、三人棒(2対2の構成 で打ち合う棒)、トウンボー(4人で行う棒)である。	
24. 八重瀬町	八重瀬町	八重瀬町	76	■豊年祭	棒巻、一人棒、組棒、舞方棒	
			77	■その他(鹿甲祭)	一人棒、組棒(二人棒、三人棒、ティンペー)、舞方棒	
24. 八重瀬町	八重瀬町	八重瀬町	78	■豊年祭 ■その他 (十五夜行事という)	棒を演武する人を「棒人衆」と呼ぶ。 ・2023年は奉納演武はなし。棒巻を南(フェー)から入場 し、北(ニシ)の棒巻(グヤー巻)の形態で行った。	
			79	■その他(鹿甲祭)	六尺棒、棒、ティンペー、サイ、トウンファー、エーク、ヌ ンティエーなど古武道具を使用した、個人または団体による 「型」、2人または3人による組棒の演武 豊年祭の中で棒術を演武する人を「棒人衆」(ボウシカ)と 呼ぶ。 豊年祭の道ズネーや馬場にて行われる舞台の前座で巻 棒が行われ、夕方からの舞台では獅子舞の前に舞方(か ぎやで風)に似た棒の舞)、武の舞(組棒を琉球音楽と融 合した演武)が演武される	
24. 八重瀬町	八重瀬町	八重瀬町	80	■豊年祭	六尺棒、棒、ティンペー、サイ、トウンファー、エーク、ヌ ンティエーなど古武道具を使用した、個人または団体による 「型」、2人または3人による組棒の演武 豊年祭の中で棒術を演武する人を「棒人衆」(ボウシカ)と 呼ぶ。 豊年祭の道ズネーや馬場にて行われる舞台の前座で巻 棒が行われ、夕方からの舞台では獅子舞の前に舞方(か ぎやで風)に似た棒の舞)、武の舞(組棒を琉球音楽と融 合した演武)が演武される	
			81	■その他 (旧6月ウチー綱引き、 七月綱、敬老会)	綱引きでは、主に子どもたちと保存会会員による棒術演 武が行われる	
24. 八重瀬町	八重瀬町	八重瀬町	82	■その他(鹿甲祭)	棒巻、一人棒(各家に伝わる型)、組棒、舞方棒	
			83	■豊年祭	「棒使や一(ボウチカヤ)と一般に言われているが、明 治、大正の先輩方はヤマニエーのタンメーのことを「棒者 (ボウシャ)」と呼んで崇めていた。戦前は、十五夜の舞台 の前に字の若者が棒巻(ボウマチ)を行い、馬場を中心に 道ズネーがあって大宴盛り以上だったと聞いている。 現在は獅子屋より公民館まで300m道ズネーを走 る。昔の映像などを見て復元が望まれる。	
24. 八重瀬町	八重瀬町	八重瀬町	84	■その他(綱引き)	六尺棒を持ち、獅子を誘い出す シーサーウーキーや豊年祭の道ズネー出発の際に六尺 棒を使用し、獅子と対峙してウチャー棒の演武がある。 「坂名城のお宮」で棒と子どもたちによる踊りが奉納さ れる。	
			85	■豊年祭	六尺棒を持ち、獅子を誘い出す シーサーウーキーや豊年祭の道ズネー出発の際に六尺 棒を使用し、獅子と対峙してウチャー棒の演武がある。 「坂名城のお宮」で棒と子どもたちによる踊りが奉納さ れる。	
24. 八重瀬町	八重瀬町	八重瀬町	86	■豊年祭 ■その他 (旧暦7月16日:シーサ ウーキー)	六尺棒を持ち、獅子を誘い出す シーサーウーキーや豊年祭の道ズネー出発の際に六尺 棒を使用し、獅子と対峙してウチャー棒の演武がある。 「坂名城のお宮」で棒と子どもたちによる踊りが奉納さ れる。	

地区	市町村名	行政区	No	方言名称 1年中行事名	3. 武術的身体表現の形態 3. 武術的身体操作・表現の形態	
24. 八重瀬町	八重瀬町	八重瀬町	87	■その他 (旧暦8月15日綱引き の後に「行方」呼ぶ。あ りては「十五夜あしび」 において実施)	津堅舞方棒(現在も行っている) ※過去においては「津堅手」(チキンディー)、「津堅の訓」 (チキンヌン)と呼んでいた。 「訓練」の意から「訓」を用いている	
			88	■豊年祭 (旧暦7月16日 盆の翌日 に行われるスーパーハ ン)	棒の演武があり、大きくはメーカタボウ(舞方棒)、組棒、 棒マチの3種類がある。津波古の棒マチは「セーマチ」と呼 ばれる(18 演武(舞)構成(意図)参照)。	
	25. 南城市	南城市	南城市	89	■その他 (観音堂祭で棒術を披露 する)	9つの型があり、特に棒術の原型とされている津堅暗闘 (チキンランヌマボウ)は技が非常に難しく、長いために上 級者しかできない型である。一般的には棒術は六尺棒で演 武し、四方に向きを変えるが、津堅棒は八方に向きを変 える。幕開けで行う舞方(メーカタ)はその場の邪気を払い 清める意味がある。
				90	■豊年祭(十五夜)	棒術
	27. 南風原町	南風原町	南風原町	91	■その他 (舞方棒 メーカタボウ)	棒術
				92	■その他 (舞方棒 メーカタボウ)	神里の舞方棒の起源は海の男が陸に上がって戦うこと があると云われています。打ち手や突き手の多彩な技に特 徴があります。
	28. 久米島町	久米島町	久米島町	93	■その他 (字形記念日)	①入場「たかまち・グヤー巻」※現在は「マチ棒」 全員参加 ②対戦「タンカー棒」 基本全員 ③基本型「ダンス棒」 8位置
				94	■その他(マースヤ行事)	棒踊り(棒術)
	31. 粟国村	粟国村	粟国村	95	■その他(マースヤ行事)	棒術
				96	■その他 (バーマスイ「御願」)	ボーフイ(棒振り)という。
37. 宮古島市	宮古島市	宮古島市	97	■豊年祭 (旧暦8月、日は選定す る。開催日は毎年5~6月 頃に決まり、保存会など 連絡がある。)	ボーフイ(棒振り)という。	
			98	■豊年祭 (旧暦8月15日 マストリヤ)	棒振りという。	
38. 多良間村	多良間村	多良間村	99	■豊年祭 (多良間の豊年祭 八月おどり)	棒術	
			100	■豊年祭 (多良間の豊年祭 八月おどり)	棒術	
39. 石垣市	石垣市	石垣市	101	■豊年祭(オンプール)	六尺棒、三尺棒、ヤリ、ナギナタ、カタナ、カマ(ガギ)、サイ、 トウンファー、ヌンチャクを2名1対の組棒で演武する。 ※ヌンチャク演武は1985年以降の記録がない。	
			102	■その他(結願祭)	棒術・獅子舞	
39. 石垣市	石垣市	石垣市	103	■豊年祭	棒術・獅子舞	
			104	■その他(結願祭)	棒術・獅子舞	
39. 石垣市	石垣市	石垣市	105	■その他(仲夏祭)	棒術・獅子舞	
			106	■その他(結願祭)	山頭を先頭に御殿の敷地内に入り、獅子舞及び全十二 組(24人)の組棒、演舞を行う。	
39. 石垣市	石垣市	石垣市	107	■豊年祭 (獅子巻発表会S40~ S47 2月)	山頭を先頭に御殿の敷地内に入り、獅子舞及び全十二 組(24人)の組棒、演舞を行う。	
			108	■豊年祭(ツナヌミン)	本来は武術であったと考えられる棒術	
39. 石垣市	石垣市	石垣市	109	■その他(イタシキバル)	本来は武術であったと考えられる棒術	
			110	■その他(共進会)	本来は武術であったと考えられる棒術	
39. 石垣市	石垣市	石垣市	111	■その他 (結願祭(まがらひ)の 他、イベント等でも演舞)	基本的に、空手の延長である「棒術」の要素で構成されて いる。また奉納棒とも位置づけられていることから、棒術 とは離れた所作も含んでいる。	
			112	■その他 (十五夜 旧暦8月15日)	六尺棒、三尺棒、ヤリ、カマ(ガク)、サイ、ナギナタを2名 1対の組棒で十組以上演武する。 棒術演武の最後には、ボーフイと呼ばれる型の演武が2 名により行われる。	
39. 石垣市	石垣市	石垣市	113	■豊年祭(ツナヌミン)	台の上には一人は鐘、もう一人はナギナタを持ち、対峙し て演武を繰り広げる。	
			114	■その他 (南島(フェーヌマ)	本来は武術であったと考えられる棒術	
39. 石垣市	石垣市	石垣市	115	■その他(結願祭・節祭)	刀、ナギナタ、六尺棒、三人棒、エーク、ティンバイ、カ ニバー(ツフ)、カマ(ガギ)、の棒巻を2名1組の組棒で演武す る。基本的には仲間満願山から伝承された棒術を基本と し、役人と百姓の戦いや三人棒(大男と人の戦い)等、 迫力ある棒術が特徴である。	
			116	■その他(種子取祭)	種子取祭は、10日間に及ぶ島の最大行事で節祭(シチ願 い)から49日にあたる成子(つちえね)の日を祭日として (旧暦9月~10月)に行なう。甲申(きのえさる)ツツキの日 に計画手配をし奉納芸能の練習を始める成子には「火の 神」豊年祭の神に種子取祭の祈願し「最初」(豊年)作 る。3日目の8日の両日に奉納芸能があり庭の芸能舞台の 芸能の奉納の中、表現の形態がある。また舞台芸能の中 にもキョウギンやドワイの中にも空手の型が見られる。	
39. 石垣市	石垣市	石垣市	117	■その他(十五夜祭)	棒術	
			118	■その他(結願祭)	空手を基にした演武、農具等を使用(カマ、クワ、ナタ)	
40. 竹富町	竹富町	竹富町	119	■豊年祭 ■その他 (旧正月、結願祭)	■型の演武がある ■正面で対峙しいる等がある ■獅子に打ちつける武術がある ■芝居の中で武術的所作が演じられる ■その他(獅子)に関する表現では、獅子の棒(東筋筋部)が ある。その時は仲本地区がオスの獅子、宮里地区がメ スの獅子を演じ、周りで保里地区が太鼓をたたくことだ	
			120	■その他(結願祭)	棒打と言ひ、一番棒~五番棒まで有ります。	
40. 竹富町	竹富町	竹富町	121	■その他(節祭)	棒による演武(2人棒、3人棒)	
			122	■その他(節祭)	棒による演武(2人棒、3人棒)	
40. 竹富町	竹富町	竹富町	123	■その他(節祭)	棒による演武(2人棒、3人棒)	
			124	■豊年祭 ■その他	豊年祭→棒術(2人棒)、ナギナタ、太鼓、剣(2人) つり棒、かき棒、六尺棒、尺棒	
40. 竹富町	竹富町	竹富町	125	■豊年祭(ムシャマ)	前集落2人棒(10組) 西集落、東集落、組棒、刀棒、ナギナタ(西集落、しんぼ う、東集落、コームツツ)	
			126	■豊年祭	棒(ぼう)は、方言で「フ」と言う。 奉納や披露の目的で、ウガフツウティでは「ヤマウカ ン」で祈願の後、午後からの祝賀会で踊られる。チムパ タイは新しいチスの家の前で踊る。	
40. 竹富町	竹富町	竹富町	127	■その他 (神座師匠(チス)の世代 交代の行事)	棒(ぼう)は、方言で「フ」と言う。 奉納や披露の目的で、ウガフツウティでは「ヤマウカ ン」で祈願の後、午後からの祝賀会で踊られる。チムパ タイは新しいチスの家の前や公民館で踊られる。	
			128	■豊年祭	棒(ぼう)は、方言で「フ」と言う。 奉納や披露の目的で、ウガフツウティでは「ヤマウカ ン」で祈願の後、午後からの祝賀会で踊られる。チムパ タイは新しいチスの家の前や公民館で踊られる。	
41. 与那国町	与那国町	与那国町	129	■その他 (チムパタイという棒座 師匠(チス)の世代交代 の行事)	棒(ぼう)は、方言で「フ」と言う。 奉納や披露の目的で、ウガフツウティでは「ヤマウカ ン」で祈願の後、午後からの祝賀会で踊られる。チムパ タイは新しいチスの家の前や公民館で踊られる。	
			130	■豊年祭	棒(ぼう)は、方言で「フ」と言う。 奉納や披露の目的で、ウガフツウティでは「ヤマウカ ン」で祈願の後、午後からの祝賀会で踊られる。チムパ タイは新しいチスの家の前や公民館で踊られる。	
41. 与那国町	与那国町	与那国町	131	■その他 (チムパタイ ※公民館長 及び棒座チスの世代交 代の行事、嶋仲の場合 は、棒巻と巻長のチムパ タイは一緒に演じられる。)	棒(ぼう)は、方言で「フ」と言う。 ウガフツウティの祈願が終わると、祝賀会で踊られる。	
			132	■豊年祭	棒(ぼう)は、方言で「フ」と言う。 ウガフツウティの祈願が終わると、祝賀会で踊られる。	